

令和元年度 第1回清水町みらい会議要旨

- 開催日 令和2年1月23日(木)
- 会場 清水町役場3階 町長応接室

○出席者(委員)

- ・岩崎 清悟 座長 (静岡ガス株式会社 取締役 特別顧問)
- ・中山 勝 副座長 (一般財団法人企業経営研究所 常務理事)
- ・植田 勝智 委員 (ファルマバレーセンター センター長)
- ・川村結里子 委員 (株式会社結屋 代表取締役)
- ・鈴木 誠一 委員 (株式会社エステック 代表取締役)
- ・長倉 一正 委員 (有限会社長倉書店 代表取締役)
- ・三船美也子 委員 (一般社団法人日本親子体操協会 理事)
- ・矢嶋 敏朗 委員 (日本大学国際関係学部 国際総合政策学科 准教授)

1 清水町の資源・強み

(1) コンパクトで平坦な、県東部地区の中心地

- ・町域が狭くコンパクト。まさに国が推進する「コンパクトシティ」にあてはまる。しかもその85%が平坦地。場所的には県東部地区の中心に位置し、海がないので災害が少ない。
- ・平坦地が多くて小さい点は強み。若者や子育て世代が快適に暮らすことができる。
- ・静かな環境で落ち着いて暮らせる場所。平坦で、歩いていろいろなところに行ける。子供たちが安全に歩ける、ベビーカーでスムーズに移動できる、といった環境づくりに力を入れるとよい。
- ・町が小さいのは弱みでなく実は強み。一点突破できるものを作るとガラッと変わる。
- ・小さい、平坦ということは、都市計画で道路を整備すれば活用できる土地ができるということ。

(2) 全国、世界に誇れる柿田川

- ・柿田川はメディアに発信できる。
- ・他の場所では見ることができない、素晴らしい景色がある。
- ・地球レベルで素晴らしい。清水町民の宝になりうる。

(3) 文化活動が盛ん

- ・母親のボランティア活動や読み聞かせなどに熱心に取り組む人たちが多い。

2 清水町の課題・弱み

(1) あまり身近ではない？柿田川

- ・柿田川は入口がわかりづらいが、看板設置の手続きも大変だと聞く。保全活動との上手な調整が必要。
- ・今の町民は柿田川をあまり身近に感じていないのではないか。むしろ狩野川の方が身近なのかもしれない。

(2) まちづくりの取組や担い手が不在

- ・清水町のまちづくり活動にアクセスしたくても、若者が活躍できる場所や施設が見えない。プレイヤーも見つからない。

(3) 製造業の活力不足

- ・県東部地区は西部地区と比較して製造業が活性化していない。

(4) 高い文化レベルが不在

- ・高い文化レベルにふれる機会が乏しい。

3 まちづくりの視点

(※ 今後の方向性を定めるにあたり、委員個々の視点で意見出しを行ったものであり、発言内容は多岐に渡る。)

(1) 若者を惹きつける戦略的なまちづくりを

- ・20年先、30年先に日本やグローバルな環境がどう変わっていくかを想像しながら、自治体としては小さい清水町がどういう存在感をもって生きていくかを考えなければならない。
- ・20年後、30年後は人口が激減していく。下からの積み上げは難しく、どうジャンプするかだ。そうなる、地域の色をどう出していくかの戦略が重要になる。
- ・清水町の特長を仮に「スモールビューティフルタウン」という言葉で表現した場合、とても住みやすい「スモールビューティフル」な環境に、どんな「高付加価値」を加えるべきか、先進的な技術や時代を担う若者が集まるにはどうすればいいのかを考えたい。
- ・裾野にトヨタの先進的な都市ができ、おそらく世界中から研究者が集まる。長泉町は医療費無料化をいち早く打ち出し「子育てしやすいまち」のブランドで人を集めている。三島はせせらぎのまち。新幹線の駅もあり、多くの人々が都会から移住している。清水町は何で将来の柱を作っていくのか考えたい。
- ・高齢者がいきいきと暮らすための、IT、IOTを駆使した実験都市にしてはどうか。高齢化という課題に関して日本は先進国なので、アジアを含め世界中から注

目される。今の若者はそういうまちに興味を持つ。住み心地だけでは来ない。

・たとえば先進的なロケット産業の集積をつくるなど、“尖った”まちをつくるにはどんなインフラ整備が必要か、町全体の都市計画を考える必要がある。

(2) 製造業の活性化

・大手企業とも連携しながら、町内の企業と一緒に航空機産業^{※1}のクラスター創出に挑戦している。

・首都圏に通う方も含め、高付加価値な産業で一定の職業が得られてはじめて子育てができる環境になる。現在の清水町は商業、サービス業が中心だが、製造業を元気にすることが定住人口増加のポイントになる。

(3) 人生の質を高める健康と学び

・リカレント教育^{※2}など成人の学習が注目されている。第二、第三の人生をこの町で長く生きていくうえで学びは重要になるので、そのマネジメントの仕組みを政策に入れてはどうか。他の市町にはない取組になる。

・赤ちゃんから妊娠期の女性、高齢者まで、あらゆる世代が健康に過ごすことが大切で、リテラシー^{※3}を上げることで生活が豊かになる。

(4) 子育て支援、教育に独自性を

・子育て世代は、いかに子育てしやすく安心して教育を受けられる環境であるかを、住む場所を選ぶときに重視する。安い家賃でよい環境の部屋に住める、などといった点が、重視するポイントになる。

・沼津商業高校の授業に観光を採り入れてもらい、高校生たちの清水町への愛着を高め、将来にわたる定住を促してはどうか。

・子育てや教育の面で清水町ならではの取組を。人口3万人規模だからこそできる教育があると思う。

(5) 若者の活躍を促す場づくり・機会づくり

・若い人がやりがいのある仕事に就いてもらい、20年、30年この地域で活躍する若者を育てていく視点が重要。

・大企業の方も交えた多様な視点が集まる学びの場があると、キャリア感の造成や自分の仕事を振り返る場になり、まちづくりへの参画が期待できる。

・先進的なビジネスの現場を活用し、若者が「働くを知る」場にする。

(6) 柿田川の保全と活用

・観光客は柿田川を中心に誘客する。国道1号線をレンタカーで往来する外国人を、サントムーンをベースに取り込んで。

・柿田川は保全が大前提で、うまく活用と両立させたい。入れるところ、入れないところをしっかりと分けて、一般に公開していきたい。

- ・保全と活用の両立は地域だけではうまくいかない。^{※4} コーディネーターの力を借りてはどうか。
- ・国道を跨ぐ地下通路や上に歩道を通すことができるとサントムーンの駐車場を活用できるので、柿田川公園へのアクセスが良くなる。
- ・あまりたくさんの人に来てもらいたくない、というのが町民の意向ならば、自分たちだけで楽しむのもいい。
- ・今の観光は、普通の生活やおじいちゃん、おばあちゃんも素材になるので、目立った観光資源がなくても人は来る。「町民だけの宝・柿田川」と言うと、逆に人が来てしまうかもしれない。
- ・^{※5} 泉頭城は、家康の隠居所になったかもしれない場所だが、その素晴らしさは、おそらく町民にも外の人たちにもあまり知られていないのではないだろうか。「もしかすると家康はここにいたんだよ」という仮定のもとでまちづくりをしていくといいかもしれない。

(7) 観光は広域連携と継続的な情報発信で

- ・^{※6} サイクルツーリズムを進めるのであれば、単独ではなく、近隣の市町に働きかけて広域でつながっていく必要がある。
- ・一度に 1000 人来るよりも毎日 10 人来た方がいい。継続的に取り組む。あまり宣伝に費用をかけず、来る方はお迎えし、「町の宝」についてうまく情報発信していけば良い。良さを出していけば、いい場所なので人は来ると思う。「来る人はどうぞ。定住したくなったらしてください」というくらいの姿勢がよい。

(8) 中小企業の活力アップ

- ・東京で働いてこちらに住む、あるいはその逆や二重オフィスという働き方も出てきている。地方の小さな会社でも経営者が良ければよい方向に向かうということを、学生たちに教えていきたい。
- ・自分は「スモールビューティフルカンパニー」を掲げている。血族だけでやっっていけばいいと思っている。小さくても素晴らしい会社が多くなれば、地域はもっと発展する。
- ・ここだけで完結するまちでいいのではないか。医療、住宅、商業は揃っている。ないのは大学くらい。そんな環境の中で、大企業がなくても中小の優良企業が集まれば、就職先も安定する。

(9) マーケティング発想に基づく情報発信

- ・今の若者はテレビを見ないし広告やマスメディアを信じない。では何を信用するのかというと、インスタグラムやユーチューブだ。こういった技術を利用するのは重要。

・(全国に清水町があるが)「日本の一番いい清水町がここにある」とアピールするなどマーケティングの発想を入れるといい。

(10) 若者は高い文化レベルを求める

・高付加価値の産業や先進的な産業を生み出す若者は、まさに高い文化レベルがないと来ない。ただ、ここで完結する必要はなく、東京に行って、日常的に触れられればいい。その点では、東京から近いというのは利点だ。

※1 クラスタ … 集団、房、群れ

※2 リカレント教育 … 学校教育を生涯にわたり分散させようとする理念。日本では、一般的に諸外国よりも広くとらえ、働きながら学ぶ場合、心の豊かさや生きがいのために学ぶ場合、学校以外の場で学ぶ場合も含めている。

※3 リテラシー … 与えられた材料を適切に理解・解釈し、活用する能力。

※4 コーディネーター … 調整する人。

※5 泉頭城 … 小田原の後北条氏が戦国時代に築城したとされ、徳川家康が自身の隠居所として縄張りを命じたとされる。現在の柿田川公園を含む一帯。

※6 サイクルツーリズム … 自転車やサイクリングを通じた地域活性化・観光の振興。